



# 田無神社

第40号

特別カラー号

神無月

発行所  
田無神社社務所

〒188-0011  
東京都西東京市田無町3-7-4  
TEL 042-461-4442

編集発行人  
賀陽智之

## 令和6年 田無神社例大祭

例大祭について総代・世話人会で審議され、宵宮10月12日(土)・本宮10月13日(日)に斎行されることとなり、また、宵宮では龍神神輿および女神輿の渡御、本宮では本社神輿および子供神輿の渡御を行うこととなりました。宵宮祭は10月12日(土)午後8時に田無神社社殿で斎行します。宵宮の龍神神輿および女神輿の渡御は午後5時半に御飯屋から出御し、午後7時半に田無神社立体駐車場2階入り口に還幸します。例大祭祭典は10月13日(日)午前10時に田無神社社殿で斎行します。本社神輿は午前10時45分に田無神社社殿前から出御し、午後3時45分に還幸します。その後、午後4時から第1回目の宮入道中神事、午後4時20分から第2回目の宮入道中神事が行われます。本社神輿還幸祭は午後4時半に田無神社社殿で斎行します。

### 宮入道中

本宮10月13日(日)午後4時からの宮入道中神事では、本社神輿が境内参道を2往復し、威勢の良い掛けと共に進みます。本社神輿が社殿還幸時に、神社関係者らが神輿に向かって紙吹雪を撒ぎ、祓い清めを行います。安全対策として、境内参道の両脇にコープを貼り、参拝者の通行・往來を一時的に制限します。ご参拝の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

### 子供太鼓曳き 中止のお知らせ

例年、お子様に太鼓を曳いていただいていましたが、神輿供奉の隊列が長くなり、交通渋

滞を引き起こすことを避けるため、中止といたしました。小学校3年生から6年生のお子様には、本社報(4頁)に記載しています、「子供神輿の担ぎ手」に奮ってご参加ください。



令和5年宮入道中の様子

例大祭総代世話人代表

- 祭典委員長 鴨志田隆殿
- 祭典副委員長 海老澤孫次殿
- 祭典副委員長 中村勇殿
- 祭典副委員長 濱野智治殿
- 祭典副委員長 新井浅浩殿
- 神幸委員長 村田建三殿
- 境内委員長 岡部長敬殿
- 太鼓委員長 細田勇雄殿
- 神幸相談役 下田信助殿
- 神幸相談役 石井重夫殿
- 神幸副委員長 鶴野義雄殿
- 神幸副委員長 常田青児殿
- 神幸副委員長 清水正幸殿
- 境内副委員長 大澤力殿
- 境内副委員長 中野恭一郎殿
- 境内副委員長 並木善衛殿
- 太鼓副委員長 濱野祐次殿
- 太鼓副委員長 行橋良和殿
- 御旗 松川武司殿
- 御旗 小泉吉男殿
- 御旗 安田庄次殿
- 鉄杖 大谷辰夫殿
- 鉄杖 矢ヶ崎宏行殿
- 会計 海老沢進殿
- 会計 肥沼岳行殿
- 奉納受付 新倉庄次郎殿
- 神幸委員 野口勉殿
- 神幸委員 尾林長承殿
- 境内委員 笠原末雄殿
- 境内委員 新井鉄夫殿

- 境内委員 下田二三四殿
- 境内委員 下田富盛殿
- 境内委員 濱野博殿
- 境内委員 鶴野文夫殿
- 境内委員 大谷光康殿
- 境内委員 平山眞栄殿
- 境内委員 岡部忠明殿
- 境内委員 中野敏男殿
- 境内委員 松川正秀殿
- 境内委員 櫻井清一殿
- 境内委員 大谷孝良殿

感謝 担ぎ手警備諸団体

アスタ専門店街出店者会・株式会社アスタ西東京・極真空手田無道場・警視庁田無警察署・國學院大學若木睦・三榮神輿保存会・三榮神輿保存会花風舞綺・サンサービス・田無北口商店会・田無北口商店会花水貴・田無交通安全連合会青年部・田無商業協同組合・田無神社維持費奉納崇敬者・田無神社氏子青年部・田無神社職員会・田無神社職員つむぎ会・田無神社崇敬会・田無神社世話人会・田無神社総代会・田無神社奉賛会・田無神社奉仕団・田無囃子保存会・大栄商店会・第4区本町会奉賛会・東京信用金庫田無支店・西東京市交通安全協会・西東京市消防団・西東京青年会議所・西東京市防犯協会・橋場商店会・保谷和太鼓会・

柳沢津島神社敬神会・柳沢文化財保存会・六商協議会半纏保存会  
(五十音順・敬称略)

宵宮の龍神輿

歴史ある神輿が田無の街へ

「千貫神輿」と呼ばれていた大きな神輿を田無神社奉賛会が、ご奉納されました。この大神輿は昭和50年に奉製され、立川諏訪祭り（東京都立川市）等で渡御していました。この「千貫神輿」を二車線の狭い青梅街道でも安全に渡御できるように修復し、神輿に龍の彫刻を施しました。辰年にご奉納されたこの神輿の名称を「千貫神輿」から「龍神神輿」と改め、令和6年の例大祭でお披露目いたします。「龍神神輿」を例大祭の宵宮で担ぎ、この神輿の歴史を紡いでいきます。

兼務社例大祭のご案内

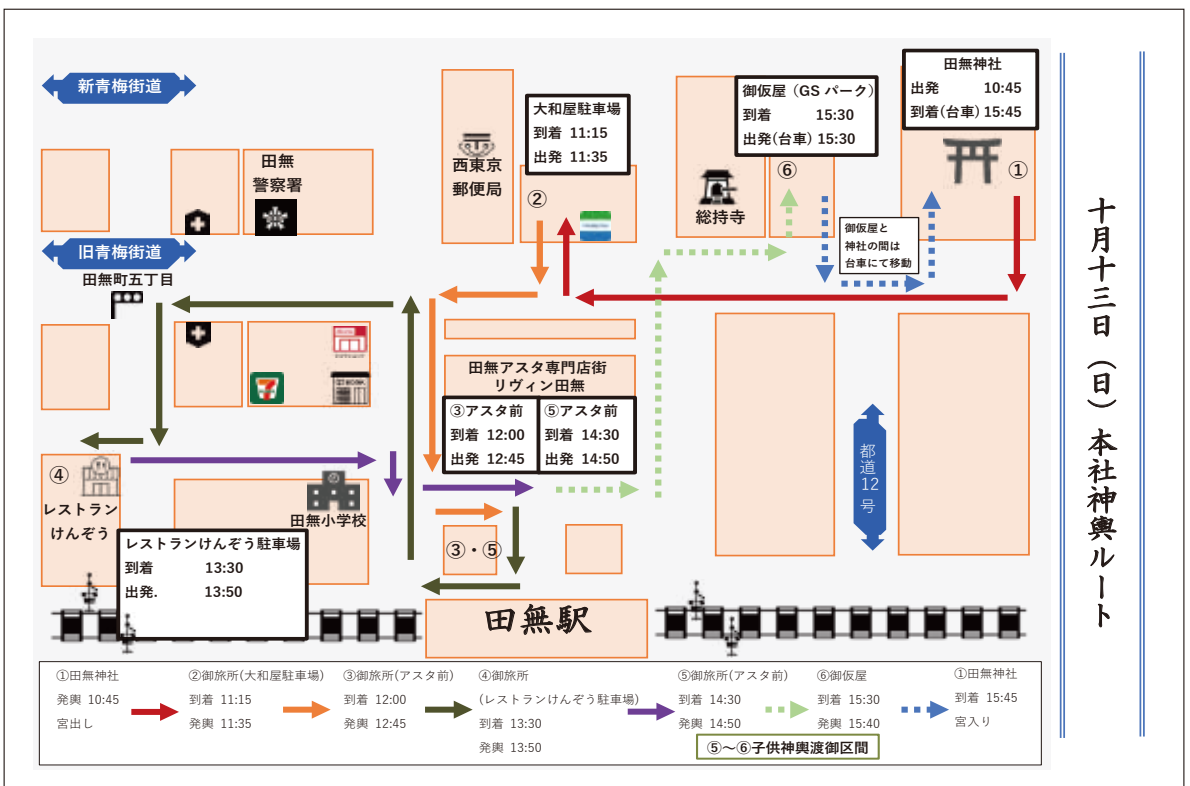
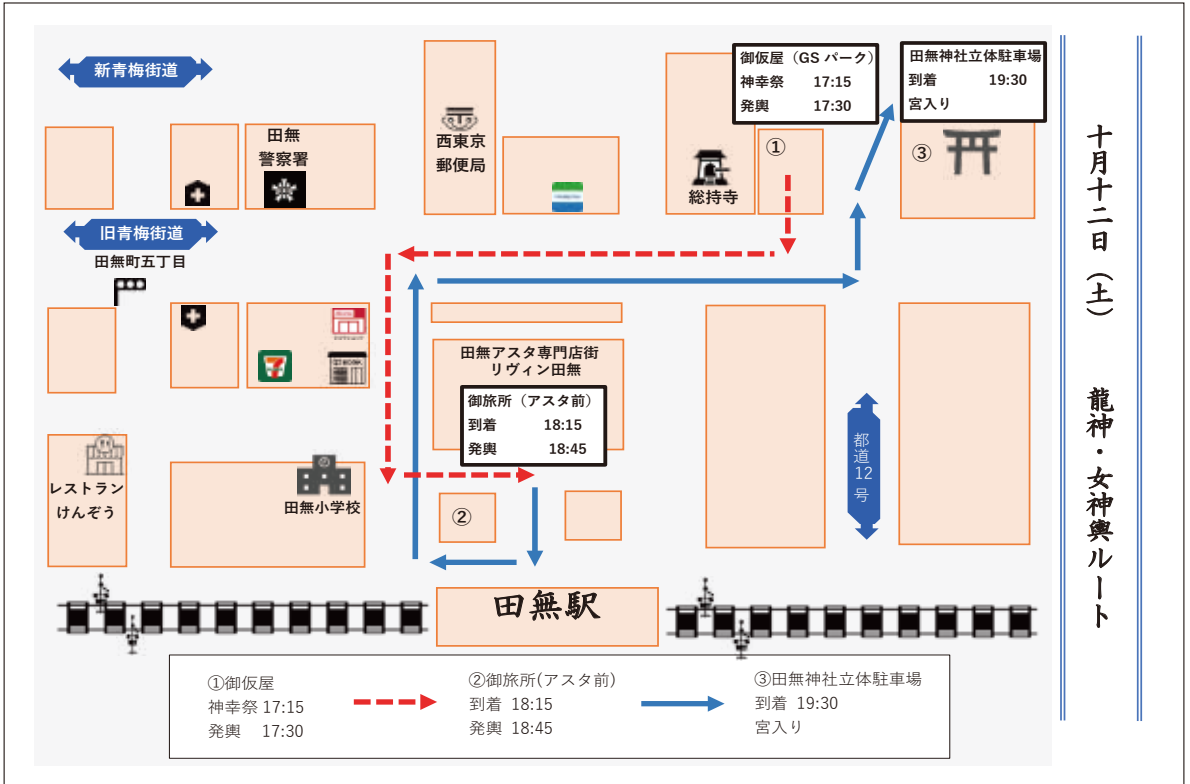
阿波洲神社では9月8日（日）午後2時、尉殿神社では10月1日（火）午後1時、下保谷天神社では10月12日（土）午後2時に例大祭における本宮祭が斎行されます。どうぞ例大祭に合わせて参拝下さい。



千貫神輿と記念撮影



クレーンで運ばれる千貫神輿



## 子供神輿担ぎ手募集

10月13日(日) 午後2時50分出御

田無神社例大祭の「10月13日(日)」に子供神輿を出します。

小学校3年生から6年生のお子さん先着100名が担ぐことができます。

次の項目をよく読んでふるってお申込みください。みんなでお祭りのお神輿を担ごう！

〔参加学年〕 小学校3年生、4年生、5年生、6年生

〔参加費〕 無料

〔申込期間と方法〕 9月7日(土)～10月6日(日)の間に田無神社社務所へ電話して申込み  
(電話番号042-461-4442)

※先着100名が担ぐことができます。

※お名前・電話番号、学年を伝えてください。

〔10月13日(日)の集合時間・場所〕

①集合時間・場所 10月13日(日) 午後2時30分までに田無駅北口ペDESTリアンデッキ  
下のアスタ1階入口前の受付

②受付で「はんてん」をお貸しします。

〔神輿ルートとタイムスケジュール〕

午後2時50分アスタ前出発→午後3時30分旧福澤屋駐車場(GSパーク駐車場)到着

※旧福澤屋駐車場(GSパーク駐車場)到着後、はんてんと交換にお菓子をお渡します。

〔注意事項〕

①当日は、子供神輿責任者の指示に必ず従ってください。

②付き添いの親御さん、ご家族は神輿から離れて歩道から応援してください。

③荒天の場合は中止となります。

その場合は前日までに田無神社ホームページでご案内します。

④神輿を担いだ際のケガ等について、応急処置はしますが、神社は責任を負いませんので、  
十分ご注意ください。

### 子供神輿規約

1. 担ぎ手は子供神輿責任者の指示に必ず従うこと。

1. 申込期間内に所定の申込み方法で申し込んだ者のうち、先着100名が担ぎ手として神輿を担ぐことができる。

1. 付き添いの家族等は神輿から離れて歩道から応援する。

1. 当日の所定の集合時間に集合場所ではんてんを貸与する。

1. 神輿を担ぎ終わったらはんてんを返却する。

1. 荒天の場合は中止する。その場合は前日までに田無神社ホームページで案内する。

1. 神輿巡幸の際のケガ等について、応急処置はするが神社は責任を一切負わない。

## 田無神社農園

田無神社農園で野菜の収穫

6月29日(土)に田無神社農園で「トマト・ミニトマト・ナス・ピーマン」を収穫し、6月30日(日)斎行の夏越大祓式・鎮火祭でお供えました。田無神社農園では、下田農園の下田将人さんに指導を仰ぎ、お祭り・祭典でお供えする野菜・果物を栽培していきます。農園での野菜・果物の栽培の状況等については、田無神社公式HP・SNSを通して紹介してまいります。



収穫した野菜



ミニトマトの採取



ピーマンの採取

## 龍神池レポート

〜生命が宿るビオトープ〜

### 第11回「意外と知らないアメンボのこじ」

龍神池が完成して6年が経過しました。龍神池には「コセアカアメンボ」、「ケシカタヒロアメンボ」という2種類のアメンボが暮らしています。アメンボは実はカメムシの仲間。ストローのような口をしていて水面に落ちた昆虫などの体液を吸って暮らしています。昆虫などが落ちると、すばやく接近して前脚で捕獲し、口を突き刺して消化液を注ぎ込み、溶けて液状

になった体組織を吸汁します。カメムシと同じく体から匂いを出し、それが餌のような匂いであることが名前の由来と言われています。池をじっくり見ていると水面を移動するアメンボたちが見つかるはずです。是非、探してみてください。

調査・監修 NPO birth



#### ◎ 今回の調査で見つかった主な生きもの



# シリーズ「田無神社と戦争」 第1回 満州事変と日中戦争

令和4年に刊行した御遷座三五〇年記念誌『写真と資料から見る「田無神社」の第8章「神社と戦争」』の項で、田無神社と戦争の関わりについて祝詞や資料を纏めました。その際に、紙幅の都合上、掲載できなかつた祝詞や資料を、田無神社社報で番号に渡り紹介していきます。

第1回目は、満州事変と日中戦争に関わる「満州事変勃発奉告及び武運長久祈願祭詞」と「満州帝国皇帝陛下御安全祈念祭詞」、「戦時下の津嶋祭」、「日中戦争 辭別に関する通知」、「二・二六事件 臨時祭祝詞」、「大國魂神社において武運長久祭齋行」、「国体明徴歌十首」について紹介します。

## 「満州事変と日中戦争」

満洲への武力進攻を計画していた関東軍将校による謀略で、昭和6年9月に奉天郊外で満州鉄道の線路が爆破されました。翌年の1月に、上海で起きた日本人僧侶襲撃事件を発端として日中両軍が衝突します。それを引き金に日本は、

陸軍を上海地方に派遣することを決定しました。この戦いで日本軍は戦死者約770名、負傷者2300名以上という損害を出し、日露戦争以来の大激戦となりました。同年9月、日本政府は満州国政府との間で日滿議定書を締結して満州国を承認します。中国政府は国際連盟に対し、侵略行為であることを提訴し、リットン調査団が派遣されますが、調査団が日本の侵略行為であると認定する報告書を提出したことで、日本は国際連盟を脱退することになりました。

満州事変に伴う、田無からの出兵兵士は昭和7年までに8名でした。

『田無市史第三巻通史編』には満州事変後の武運長久祭ついて下記のように言及しているのでご紹介します。

「満州事変後、銃後の援護活動も開始された。昭和6年12月13日、在郷軍人会田無分会が田無神社で、入隊官兵士のための神前式並に国運進展満州出兵兵士武運長久祈願祭を、また、32年2月17日には田

無神社が祈年祭に併せて、田無からの出兵兵士の為の「武運長久祈願祭」を挙行している。田無神社は出征兵士送迎の際の神前式を司るほか、祈年祭、五穀豊穣祈願祭、例大祭、新嘗祭など恒例の祭りには必ず兵士の武運長久祈願を併せおこなっており、神社の果たす役割が事変後、一段と大きくなっていく。』『田無市史第三巻通史編』816頁引用

日中戦争は、昭和12年から昭和20年まで、大日本帝国と中華民国の間で行われた戦争です。北京郊外での武力衝突をきっかけに、華北から華中へと戦争を拡大し、首都南京を占領。さらに華南に入り、中国軍との戦争は全土に広がっていききました。盧溝橋事件後、田無でも兵士の召集が相次ぎました。

『田無市史第三巻通史編』に当時の状況についての記載があるのでご紹介します。

「昭和12年7月に起こった盧溝橋事件を機に日中間の戦争が全面化する」と、田無では兵士の召集が相次ぎ、動員下令は、年末までに20回におよんだ。1937年中に田無町から召集された兵士は55人、在營者中の出征者数は13名におよんだ。・・・(中略)・・・日中戦争開始後最初の召集が、小林春吉、今井啓治、石塚甚吉の三名に伝えられると、8月1日には田無神社で報告祭ならびに、国威宣揚皇軍健勝祈願祭が実施された。・・・(中略)・・・下田日記には1937年8月から11月までの4ヶ月間に18回の召集があり、そのたびに田無神社での祈願祭と駅での見送りが行われた。・・・(中略)・・・39年9月から毎月1日を興亜奉公日として、神社参拝・一汁一菜・禁酒禁煙・日の丸弁当などを励行させた。田無小学校では興亜奉公日には青少年学徒二賜リタル勅語の奉読、神社・奉安殿の清掃参拝、出動将兵の武運長久・戦病没将兵の慰霊黙禱、町戦死者の墓地清掃・墓参、出征兵士への慰問文発送、学校ノ為謝恩ノ勤勞奉仕が実施されている。・・・(中略)・・・1938年から毎年7月7日には支那事変記念日の行事が施行されているが、一周年記念日には田無神社で出征兵士の武運長久と護国の英霊に対し黙禱、祈願祭が行なわれている」

『田無市史第三巻通史編』 826頁  
↳ 830頁引用

満洲事変勃発奉告及び武運長久祈願祭詞

昭和6年に満洲事変が勃発したことを奉告する祝詞です。満洲事変は、昭和6年9月に奉天郊外の柳条湖で、関東軍が南満州鉄道の線路を爆破した柳条湖事件に始まり、関東軍による満洲全土の占領、昭和8年5月の塘沽協定成立まで指します。

祝詞の中で、明治27年に日清戦争、明治37年に日露戦争に勝利したことに言及し「永遠満洲乃地乎租借乃地登奈志氏（中略）三十年余餘年月数多乃人々乃力乎盡志」と日本が正當に満洲を租借し国家を挙げて発展させてきたことを述べています。その上で、日本軍が古来より勇猛であることを讃えて、さらなる武運長久を祈願しています。「武運」とは戦いや戦場における幸運を言い、「長久」は終わることがなく続くことを言います。出征する家族や親しい人を見送る人々は、いつまでも幸運が続き、無事に帰還することを切に願い、この言葉を送ったのでしよう。

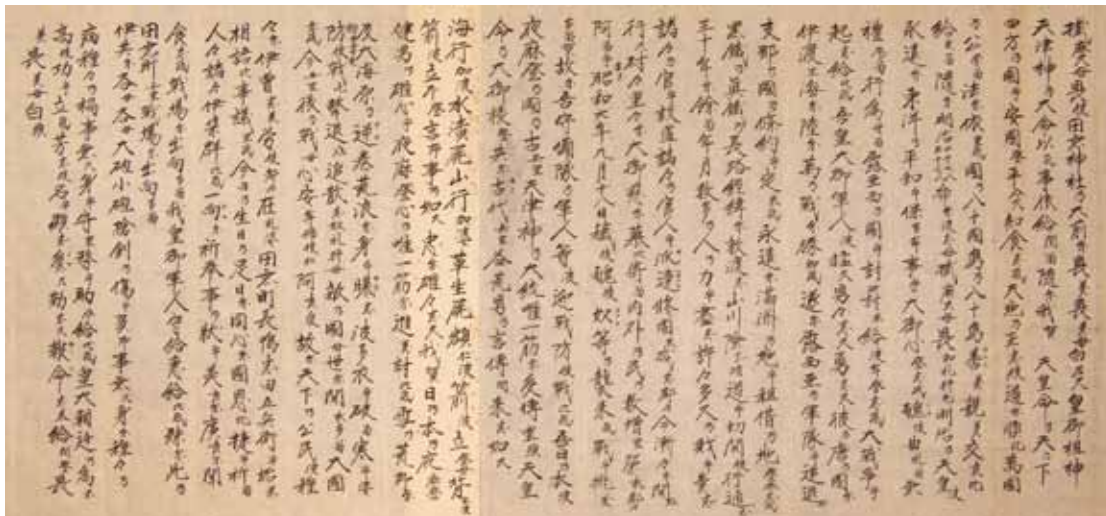
田無神社宮司・賀陽賢司と田無町長・鴨志田五兵衛氏との会議によって、この祈願祭を斎行するこ

とが決まったと祝詞に記されています。鴨志田五兵衛氏は町議を6期務めた後、昭和2年に58歳で町長に就任し、昭和10年に任期満了で退任されました。

祝詞文中に「田無町与里戰場尔出向多苗伊共尔各母各母大砲小砲槍劍乃傷乎負布事無久身尔種々乃疾種々乃禍事無久」とあり、田無町から戦場へ向かう人々に怪我なく病氣なく、帰って来られることをこの祝詞で祈願しています。 ※なお、田無町より出征し戦死した、鶴田茂太郎氏と金子春吉氏の慰霊祭が昭和12年9月8日に田無神社で斎行されました。この慰霊祭には、田無町長をはじめ地元住民たちが参列され故人を偲びました。

文中に「昭和六年九月十八日穢伎醜伎奴等乃襲来」とあり、南満州鉄道線路の爆発は「穢れた醜い奴らの襲来」によって起きたとされています。また、文中に「迎敵防伎戦比」とあり、日本軍の戦いはあくまでも防衛であったとしています。

その後、関東軍は嫩江・千手ハル作戦を遂行し11月19日に千手ハルを占領しました。



# 満洲帝国皇帝陛下御安全祈念祭詞

この祝詞は、満洲帝国皇帝愛新覚羅溥儀が昭和天皇の招待により、昭和10年4月に日本を国賓として公式訪問する際の安全祈願の祝詞であり、東京府神職會より各神社に送付されました。

溥儀は中華圏最後の皇帝で、その生涯を題材にした映画「ラストエンペラー」としてよく知られています。

溥儀一行は公式訪問の際に、日本側が比叡を御召艦として提供したので、満洲海軍艦を使用しました。東京駅に到着した際には、両国の深い関係を表すように、昭和天皇自らが、駅のホームまで迎えに行くという、日本の歴史上無い異例の歓待が行われました。その後、一行は赤坂離宮に滞在し、公式晩餐会が開かれ、歓迎を受けました。昭和15年の皇紀2600年記念行事が東京で行われた際にも、奉祝のために再び訪日し、伊勢神宮などを参拝しました。

祝詞文中に「三月一日刀言布璽満洲帝国皇帝乃御位璽即加世給比閉里之乎康徳刀改米給閉里・・」とあるのは、昭和10年3月1日に溥儀は満洲帝国皇帝に即位し、「康

徳帝」と称されたからです。満洲国では日本の皇室との混同を避けるため、「帝室」と呼んで区別しました。

祝詞文中に「彼乃邦刀我賀邦刀波齒刀唇刀乃如久互美璽相離禮奴國柄」とあります。「齒と唇との如く」の意味は分かりませんが、慣用句の「唇滅びて齒寒し」の類語であるとしたら、日本と満洲帝国は齒と唇のように「互いに助け合うべき」関係性があると読解できます。

満洲皇帝は日本の天皇制をそのまま満洲国に持ち込む形となり、日系官吏や関東軍のよる統制を受け続けました。帝政移行の背景には、日本による満洲国の指導と日滿一体化をより、強力にすすめるという意図が存在しました。

祝詞文中にある「阿須波乃神」は宮中(宮廷)守護の神として知られています。本居宣長の『古事記伝』においては「アスハ」を「足場」の変化と解し、足で踏み立つ場所を護る神としています。また、万葉集の防人の歌には「庭中の阿須波の神に小柴さし吾は斎わん帰る来までに」とあり、旅中や家を離れた者の無事を祈る神としています。

## 満洲帝国皇帝陛下御安全祈念祭詞稿

掛、久、母、畏、某、神、社、乃、宇、豆、乃、御、前、位、勅、功、得、氏、名、恐、恐、母、白、左、久、我、賀、大、神、等、乃、見、之、知、食、須、費、如、久、滿、洲、乃、國、波、之、昭、和、乃、七、年、安、聖、計、武、獨、立、如、天、年、乎、大、同、乃、稱、謂、執、政、刀、仰、奉、里、戴、奉、里、多、里、之、君、彼、母、去、年、乃、三、月、一、日、刀、言、布、璽、滿、洲、帝、國、皇、帝、乃、御、位、璽、即、加、世、給、比、閉、里、之、乎、康、徳、刀、改、米、給、閉、里、之、乎、皇、御、國、最、先、辨、認、奉、里、扶、升、奉、禮、爾、今、回、畏、久、母、皇、帝、陛、下、御、設、達、々、爾、皇、御、國、爾、奉、母、大、座、之、坐、之、許、留、曾、母、彼、乃、邦、刀、我、賀、邦、刀、波、齒、刀、唇、刀、乃、如、久、互、美、璽、相、離、禮、奴、國、柄、爾、之、天、東、洋、乃、平、和、乃、上、乃、美、爾、在、良、受、延、支、天、彼、世、界、乃、平、和、乃、上、爾、母、爾、爾、爾、事、奉、禮、爾、往、前、掛、前、挂、前、挂、遠、長、久、相、親、美、相、睦、思、給、波、武、乃、刀、畏、久、母、思、保、之、召、之、天、皇、帝、陛、下、爾、波、文、武、乃、官、人、等、諸、乎、阿、等、母、比、立、天、朝、鳥、乃、朝、立、知、坐、之、天、比、氣、鳥、乃、比、氣、往、加、爾、世、畏、久、母、阿、須、波、乃、神、並、更、奈、里、海、原、乃、邊、爾、母、與、爾、母、領、文、在、須、皇、神、等、諸、波、導、支、奉、里、給、爾、禮、登、玉、針、乃、道、乃、長、手、母、干、尋、乃、浪、乃、上、母、大、殿、內、爾、在、須、爾、如、久、平、計、久、安、計、久、別、支、天、皇、御、國、爾、大、坐、之、坐、左、武、間、波、大、神、地、祇、乃、守、幸、爾、給、有、信、計、禮、婆、八、十、禰、津、日、神、乃、枉、事、無、久、大、身、軀、不、和、美、給、布、事、無、久、大、御、心、不、許、久、爾、爾、大、座、之、坐、之、天、導、支、奉、里、武、任、爾、此、處、彼、處、乎、見、宜、說、給、比、見、愛、美、坐、之、天、大、御、心、乎、願、來、給、比、大、御、思、乎、爾、加、之、坐、之、天、速、計、久、事、竟、爾、給、比、天、幸、久、眞、幸、久、令、還、奉、給、閉、刀、言、所、美、奉、禮、々、々、恐、無、久、障、無、久、還、里、坐、之、坐、左、受、彼、乃、邦、人、等、諸、言、天、地、母、搖、實、心、如、甲、萬、歲、乃、登、里、戴、爾、禮、爾、自、天、給、升、刀、禮、代、乃、機、代、物、刀、尊、御、禮、豐、御、清、野、和、物、山、物、海、物、物、師、乃、鏡、時、乃、菓、爾、至、爾、爾、拆、竹、乃、登、乎、乎、登、乎、々、爾、置、高、成、之、天、一、向、爾、請、此、福、岐、奉、良、乎、平、計、久、安、計、久、間、食、世、刀、畏、美、畏、美、母、稱、許、竟、奉、良、久、刀、白、頭、

戦時下の津嶋祭

田無神社境内末社の津嶋神社の大祭は、毎年7月15日に津嶋祭として斎行し田無2区「津嶋神社敬神会」が担当していました。

この「神社功労者表彰申請書」には、昭和敬神会会長野口秋太郎氏、昭和敬神会副会長小山壽平氏を称える旨が記載されています。文中には、戦時下で、「津嶋神社敬神会」の会員が減少し、お神輿の渡御、祭礼も縮小する中、この2名が中心となり、私財を投じ、「津嶋神社敬神会」を「昭和敬神会」に名前を改め、新たに会則を定めて、神社の隆盛のために尽くしたので表彰することが記されています。

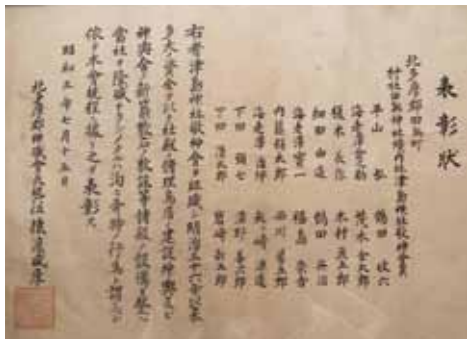
昭和の中頃まで、1区の津嶋神社の神輿と2区の津嶋神社の神輿がそれぞれの神輿の上に祀られた鳳凰を取り合う喧嘩神輿を行っていました。田無1区の津嶋祭は「天王祭」として毎年7月第2週の日曜日に斎行され現在でも神輿の渡御がありますが、田無2区の「津嶋祭」は途絶えてしまいました。田無市史第四巻民俗編に下記のように、喧嘩神輿の記述がありますので、ご紹介いたします。

「7月15日は休日であり、昭和30年頃まで喧嘩神輿は行われていたが、神輿の担ぎ手がなくなりやめてしまった。明治の末頃まで5区にあった八坂神社にも神輿があり、天王様の祭りの日には1区、2区、5区の神輿が石神井川をはさんで喧嘩で賑わった」

『田無市史第四巻民俗編』（P48）引用



田無1区の天王祭の服装（昭和30年代）



表彰状

神社功労者表彰申請書

東京府若多摩郡田無町鶴座  
村社田無神社境内末社  
津嶋神社

右田無神社本社津嶋神社の敬神会  
有之候之近年経済界、不況之遭遇  
ニ慮負之年々減少シ餘無、奉仕及  
御神輿、渡御等毎々衰微セシ  
左記ニ名、若深リ百感ニ歎々奉仕シ

同志ヲ呼合シ私財ヲ投ジ倉名ヲ昭和  
敬神会ト改メ倉則ヲ制定シ内外  
諸施設ヲ整備シ推シテ倉長及副  
倉長ト爲リ以テ該神社、爲メ盡力  
セシ段敬神会相、發露ニシテ誠ニ  
奇篤ニ行爲ニ候間特別、御詮  
議ヲ以テ表彰被成下度此段申  
請候也

昭和十年七月七日

神社功労者表彰申請書

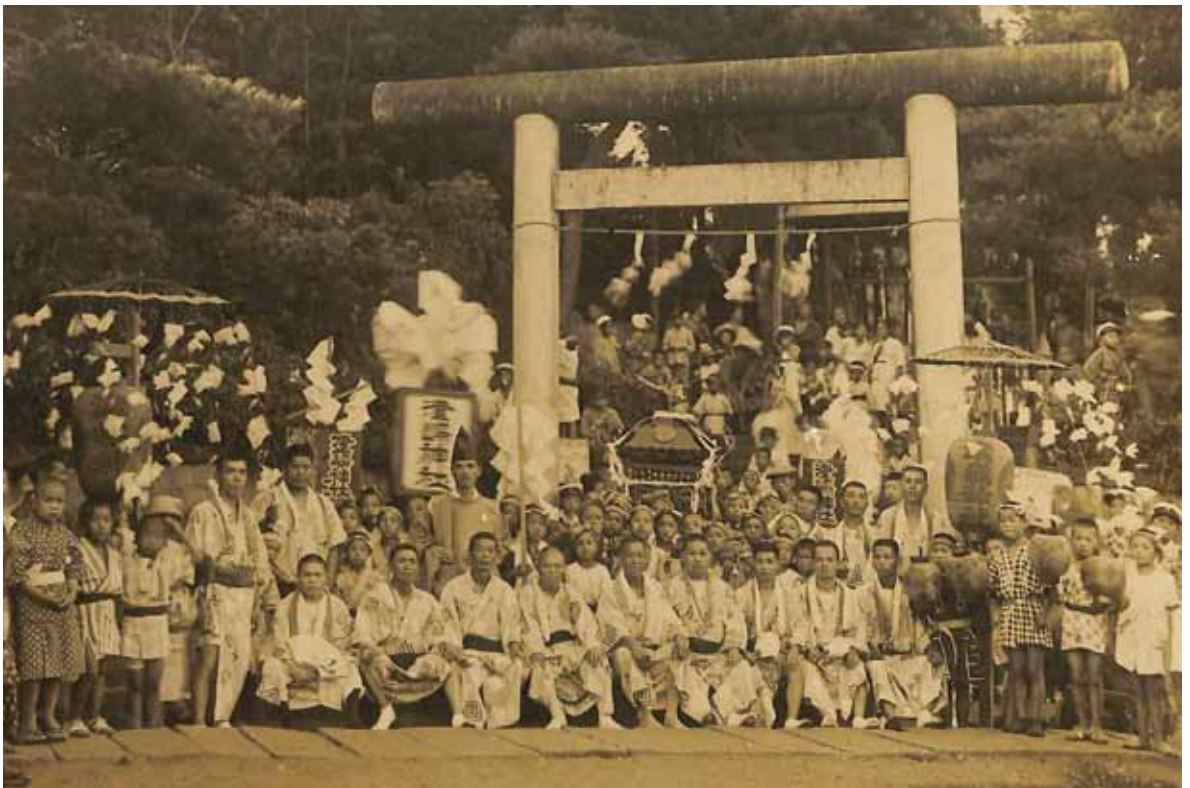
### 昭和敬神會々則

- 第一條 本會ハ昭和敬神會ト稱シ本部事務所ヲ會長宅ニ置ク
- 第二條 本會ハ田無町ニ鎮座在シマス津島神社ノ例祭執行ニ當リ進シテ之ヲ奉養シ派茂英難ノ除去退散ヲ祈願シ併セテ神洲守護義勇奉公ノ精神ヲ培養普及スルヲノ左ノ事業ヲ行フヲ以テ目的トス
  - 一、神輿ノ渡御執行並ニ之ヲ警護
  - 一、神職ヨリ發行スル御神札ノ配符
  - 一、津島神社内外ノ清掃
  - 一、御假屋ノ設置
  - 一、境内余興ノ開催
  - 一、會所ノ設置
  - 一、祭典執行精神ノ宣揚
- 其ノ他本會ノ目的遂行上適切ナル事項
- 第三條 本會ハ正會員及特別賛助會員ノ二種トス
- 第四條 本會ノ組織主体ハ田無町ニ番組在住ノ氏子有志一般トナシ之ヲ正會員ト稱ス
- 第五條 本會ハ各組長各宮世話人ノ御承諾ヲ得タル上會長ノ名ニヨリ之ヲ特別賛助會員ニ推薦スル事ヲ得
- 第六條 本會ハ正會員ノ互選ニヨリ役員ヲ左ノ如ク定ム但シ正會員ヲ有スル戸主組合ノ伍長ハ其ノ組合員ノ代表トシテ公然ノ資格ニ於テ各種會議ニ出席シ發言權及選舉權ヲ自由ニ行使シ得ルモノトシ其ノ附屬組合正會員ハ之ニ缺テ何等異議ナキモノトス
  - 一、當議員二十五名但シ有資格者ノ一般的選挙
  - 二、會長一名但シ當議員ノ互選
  - 三、副會長一名但シ當議員ノ互選
  - 四、常任幹事十名但シ當議員ノ互選
  - 五、幹事長一名但シ常任幹事ノ互選
  - 六、會計部長一名但シ常任幹事ノ互選
- 第七條 本會ニ於ケル選挙資格者ハ現任伍長、二番組代議員、二十日會々長以下幹事トス
- 第八條 役員ノ任期ハ四ケ年トシ再選ヲ妨グザルモ會長ニ限り任期満了後ハ再選ヲ固辭スル事ヲ得
- 第九條 本會ハ田無町ニ番組ノ現任組長及同現在在町會議員ハ相談役トシテ推薦スルモノトス
- 第十條 本會ノ經費ハ二番組及二十日會ヨリノ補助金、祭典日ノ淨財奉納金、有志ノ寄附金等ヲ以テ之ニ充テ
- 第十一條 本會ノ幹事長ハ會長ノ指令ニヨリ會務ヲ處理シ會計部長ハ會計ヲ掌ル
- 第十二條 本會々長ハ必要アル毎ニ各種役員會ヲ召集スル事アルベシ
- 第十三條 本會ハ役員改選期ニ定時總會ヲ開催スルコトトシ其ノ他ハ必要ニ應ジテ臨時總會ヲ開クモノトス
- 第十四條 本會ノ會則ハ役員會ニ於テ緊要ト認メタル場合ニハ隨時變更スル事ヲ得ルモノトス
- 第十五條 本會關係者ノ表彰、慰勞、弔慰等其他細目ニ涉ル事項ハ役員會ニ於テ臨機之ヲ定ムル事ヲ得ルモノトス 以上

昭和六年六月

- 田無町ニ番組長 田無町ニ番組長 利平
- 創立委員長 田無町二十日會長 中
- 創立副委員長 田無町二十日會長 六
- 本文起草委員 田無町二十日會長 同
- 外創立委員 藤宮長 同
- 増宮長 同
- 小田山 同
- 下田 同
- 矢野 同
- 藏 同

昭和敬神会会則



津嶋神社敬神会記念撮影(大正15年7月15日)

写真で振り返る津嶋祭  
(天王祭)



1区の神輿(昭和30年代)



一の鳥居付近(昭和30年代)



記念撮影(昭和35年)



記念撮影(昭和30年代)



1区神輿渡御(令和5年)



1区津嶋神社例大祭(令和6年)



1区神輿幸祭(令和元年)

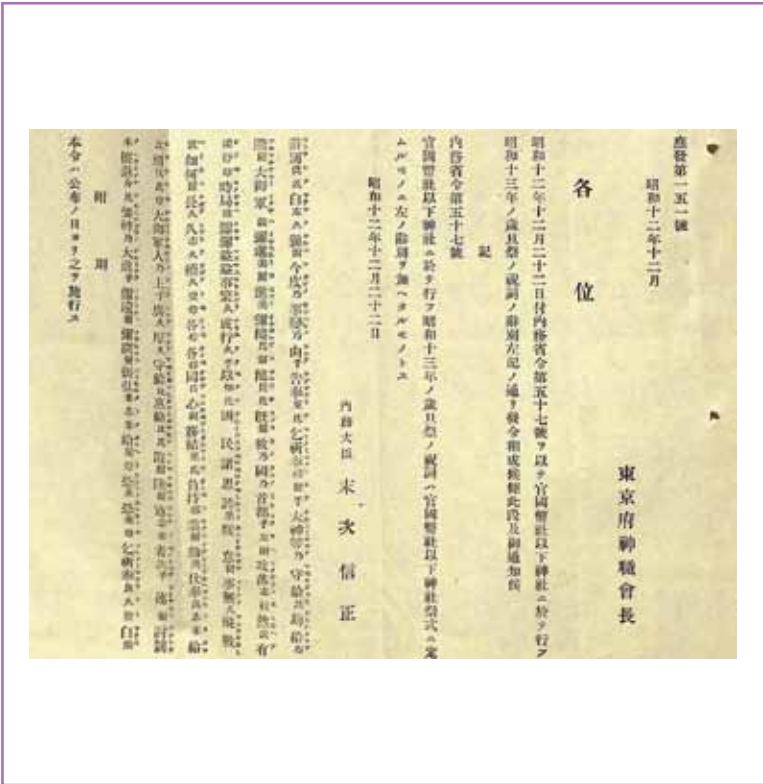


1区子供神輿渡御(令和4年)

# 日中戦争 辭別に關する通知

これは昭和12年12月22日に内務省より全国の神社に発令された歳旦祭の祝詞に關する通知です。「辭別」とは祝詞の中で別段を設け、ことばを改めて奏上することです。この通知では年ごとに各神社で元旦に齋行される歳旦祭の祝詞に、日中戦争に關する内容を追加して

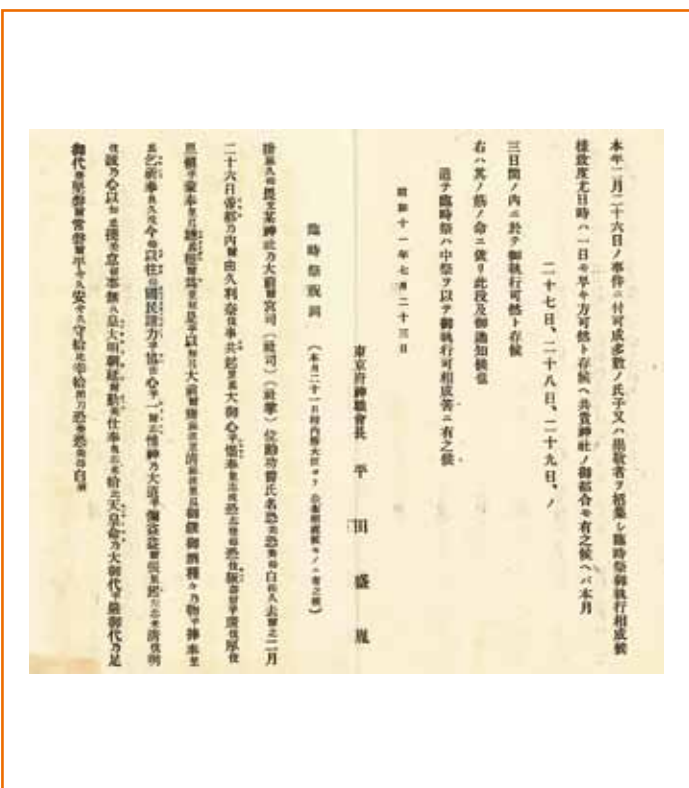
奏上するように指示しています。文中では「既爾彼乃國乃首都乎左開攻落志奴」とあり、中華民国の首都南京を陥落させたことを奉告しています。また、今後の戦争における軍人たちの安全と戦勝を祈願しています。



# 二・二六事件 臨時祭祝詞

これは、東京府神職會長からの、二・二六事件発生を受けて、臨時祭を齋行することを促す旨の通知書です。二・二六事件発生から5ヶ月後の昭和11年7月27日、28日、29日に臨時祭を執り行うよう指示されています。二・二六事件では、岡田啓介首相と誤認された義弟で秘書であった松尾伝藏海軍大佐が射殺されたのをはじめ、高橋是清

蔵相、齋藤実内大臣、渡辺錠太郎教育總監が殺害され、鈴木貫太郎侍従長が重傷を負いました。文中に「帝都乃内爾由久利奈伎事共起里氏大御心乎惱奉理氏・」とあり、昭和天皇が事件に対して悩まれていたことが窺えます。クーデターは天皇が断固たる討伐の意思を示して鎮圧へと向かい、2月29日に終息しました。



## 大國魂神社において武運長久祭齋行

北多摩郡内の各神社（田無神社を含む）の神璽を大國魂神社に勧請し、郡内出身の在満将兵のために、武運長久祈願祭を執り行う旨が記載されています。

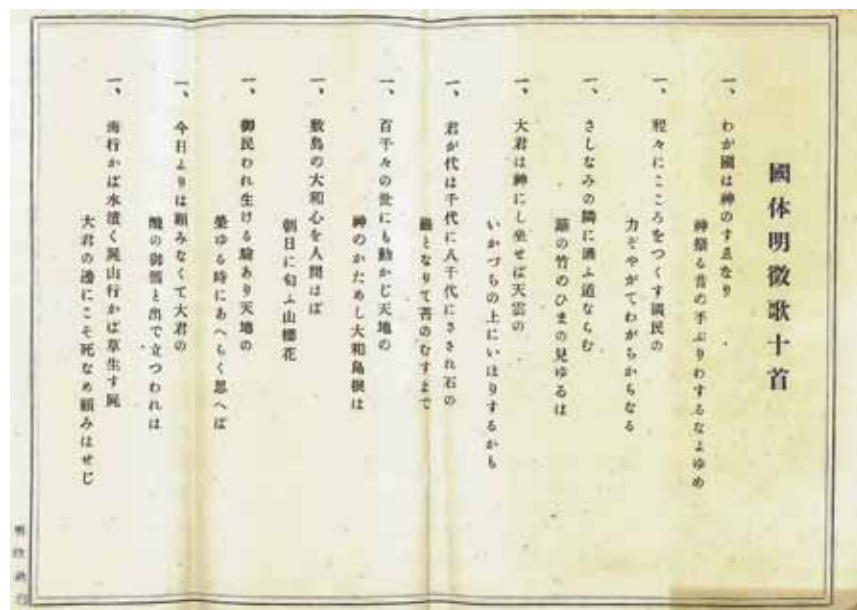
田無神社では昭和6年の満州事

変以降に、数年間に渡り、4月の五穀豊穣祈願祭にあわせて、満州に出兵した兵士の武運長久祈願祭を齋行し、氏子崇敬者より奉納金を募っていました。

## 国体明徴歌十首

十首の中には、明治天皇御製や国歌、萬葉集の防人歌が含まれています。国体明徴は天皇中心の国体観念を明確に証拠立てることです。

す。国体明徴声明は昭和10年に、天皇機関説事件の中で軍部や右翼団体が時の岡田内閣に迫って出された政府声明です。



### 秋の御朱印

銀杏や楓の木々が色付き、境内が一年で最も美しい季節を迎えます。10月・11月は、下記の日程で御朱印の通常書体が秋の特別な書体に変更となります。

月次祭書体…10月1日(火)・10月15日(火)・11月1日(金)・11月15日(金)

例大祭書体…10月12日(土)・10月13日(日)

酉の市書体…11月4日(月)・11月5日(火)・11月16日(土)・11月17日(日)・11月29日(金)

紅葉書体…11月9日(土)・11月10日(日)・11月23日(土)・11月24日(日)

新嘗祭書体…11月23日(土)※新嘗祭書体を半紙で頒布いたします。

秋限定御朱印符…9月1日(日)～11月30日(土)※秋限定御朱印符を半紙で頒布いたします。



通常書体



酉の市書体



例大祭書体



月次祭書体



秋限定御朱印符



新嘗祭書体



紅葉書体

10月12日(土)～11月30日(土)の期間、秋限定の田無神社ご神木の銀杏の葉をイメージした、切り絵の御朱印を頒布いたします。デザインなど詳細は10月初旬に田無神社公式HPでお知らせします。

#### 秋限定切り絵御朱印



巫女袴仕様



千早仕様

#### 「御朱印帳千早仕様」頒布再開のお知らせ

御朱印帳千早仕様は、全面織り仕様の巫女袴柄(緋袴仕様)の御朱印帳に千早の柄をあしらったビニールカバーをつけておられます。頒布価格2,000円。

令和6年  
七夕てるてるトンネル

令和6年6月12日（水）～7月16日（火）の期間、「七夕てるてるトンネル」を田無神社境内に設置しました。例年、色とりどりのてるてる坊主が飾りつけられた「七夕てるてるトンネル」が、6月中旬から7月中旬まで田無神社境内に設置されています。平成26年から平成30年までは竹と笹のトンネルを境内に設置していましたが、この時期が梅雨にあたることから、令和元年よりトンネルにてるてる坊主が飾り付けられようになりました。

七夕トンネルは、御祭神の級津彦命・級戸辺命に感謝し、台風や雨風の災害なく、農作物が順調に成長することを祈念して境内に設置されるものです。

皆様がお願いごとを記入し、トンネルに結びつけた「てるてる短冊」は7月中旬に境内でお焚き上げ祭を斎行し、感謝の気持ちを含めて神様に奉告しました。



## 神社からのお知らせ

### 天神社初穂祭と太鼓お披露目式

8月23日(金)午後2時から天神社において、氏子総代参列の下、初穂祭及び天神社太鼓お披露目式が執り行われました。この太鼓は昨年の天神社例大祭で90年ぶりに渡御を復活させた歴史ある太鼓です。本年、この太鼓の台車を株式会社浅野太鼓楽器店が作り直し、革を貼替えて新調しました。

下保谷天神社では10月12日(土)午後2時に社殿で例大祭における本宮祭が斎行されます。それに伴い、御太鼓巡幸(太鼓行列)が行われる予定です。午前11時半に神社を出発し、北町や下保谷を渡御し(約1km)午後1時半に神社に還幸します。午後4時に神社にお越しいただいたお子様たちにお菓子をプレゼントします。午後8時



太鼓巡幸(令和5年)

からは、打ち上げ花火があげられる予定です。皆様のご参拝を心からお待ちしております。



### 神嘗奉祝祭と抜穂祭

伊勢の神宮では、毎年10月17日に天照大御神様に新穀を奉る神嘗祭が斎行されます。全国の神社で行われる「神嘗奉祝祭」は、伊勢の神宮で行われる「神嘗祭」を奉祝し、今年の豊かな実りに感謝し、国の平穏と国民の安寧を祈念します。田無神社では、お供えする稲穂を刈り取る「抜穂祭」を10月上旬に、神嘗奉祝祭を10月17日(木)に斎行します。



抜穂祭の様子(令和5年)

### 西の市

11月5日(火)一の西、11月17日(日)二の西、11月29日(金)の日程で西の市(熊手市)開催します。一の西、二の西、三の西とも午後9時から社殿で「大西祭」の祭事を執り行います。両日とも境内は熊手屋や出店で賑わいます。是非、西の市(熊手市)にお越しください。

時間…正午から午後10時迄  
本殿拝観会…本年は中止



西の市の様子(令和5年)

### 新嘗祭

新嘗祭は宮中恒例祭典の中の最も重要なものであり、現在でも天皇陛下自らご栽培になった新穀もお供えになります。田無神社や保谷三社においても、稲の収穫を祝い、翌年の豊穣を祈願する新嘗祭を斎行いたします。

「田無神社」11月23日(土)午前10時〜「厨殿神社」11月23日(土)午後1時〜「天神社」11月23日(土)午後2時〜「阿波州神社」11月23日(土)午後2時〜。



新嘗祭 稲穂と神職(令和5年)

### 絵馬デザインコンテスト

田無神社干支絵馬デザインコンテストの作品募集を8月31日(土)に締め切りました。西東京市をはじめ全国の皆さまから数多くの作品が寄せられました。作品は、9月中旬に切絵作家の小出菟氏、漫画家のクロマツテツロウ氏による

選考委員会にて厳正な審査を行い、入賞4名、入選25名を選出する予定です。全国から寄せられた応募作品の中から、見事に入賞された4名の方々の作品を、9月下旬に田無神社公式ホームページ上で発表いたします。また、入賞・入選作品は、10月上旬に「田無ASTA (アスタ)」2階センターコートにて展示を予定しております。

七五三参り

田無神社において、立派に成長したお子様の姿を神様にご覧いただき、感謝の気持ちのご奉告と今後の健やかな成長をお祈りします。コロナ対策のため、10月19日(土)から12月1日(日)の期間は、境内にトラスメントを設置し、密を避け参拝者相互の距離をとって斎行いたします。

※ご祈祷の予約は必要ありません。お申込みになられた方から順次ご案内いたします。混雑期では、15分から30分程お待ちいただく場合があります。初穂料は5,000円、10,000円、20,000円以上の3種類がございます。ご祈祷の内容は同じですが、授与品やお札の大きさなどの違いがございます。

ご祈祷受付時間…9時～16時

田無神社ラジオ

F M 西東京において放送中の「田無神社ラジオ」が8年目に突入！毎月第3金曜日13時～13時30分(生放送) 翌週金曜日13時～13時30分(再放送)です。どうぞご聴取ください。



ラジオ収録 記念撮影(令和6年6月)

お正月縁起物

分散参拝の観点から、破魔矢などの縁起物を令和6年12月1日(日)より頒布いたします。新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染拡大防止のため、令和7年の初詣は大晦日や三が日などの混雑する日を避け、分散参拝にご協力ください。



卓上熊手

旧例祭日

9月19日(木)は田無神社の旧例祭日です。午後2時から摂社の龍神社(黒・白・赤・青)の例祭祭典(五龍神祭)を執り行います。どなたでもご参列できますのでどうぞご参拝ください。



五龍神祭(平成29年)

神社de献血

10月14日(月・祝)に国登録有形文化財の田無神社参集殿にお

て、献血会を実施します。輸血を必要としている患者さんの尊い生命を救うため、献血にご協力をお願いいたします。

日時…10月14日(月・祝)

11時～15時30分

場所…田無神社 参集殿

一楽萬開札

「令和7年の吉方は西」11月23日(新嘗祭)から、2月2日(節分祭)の期間に田無神社社務所にて一楽萬開札を授与します。一楽萬開札をその年の吉方にお祀り下さい

一楽萬開札を受ける事により、龍神様より最初の楽をいただけるといわれています。この最初の楽を一楽と言ひ、一つの楽が次の楽を呼び、次々に楽が集まり、「萬の道」すなわち人生が開かれることを一楽萬開と言ひます。



一楽萬開札

境内四季



紅葉 令和5年11月撮影



降雪 令和6年2月撮影



本社神幸祭 令和5年10月撮影



巫女 令和4年4月撮影



太鼓還幸 令和5年10月撮影



教える巫女と教わる巫女 令和4年4月撮影



宵宮の供奉 令和5年10月撮影



献饌 令和6年8月撮影